長崎発 SDGs ～未来へつなぐ～ vol.3 ⑲

「長崎発 SDGsキャンペーン～未来へつなぐ～」では、SDGsにつながる県内各地の活動などを毎月2回掲載します

修学旅行で平和ワークショップ 主体的・継続的な学びと発信を

長崎国際観光コンベンション協会

平和・歴史学習の場として、毎年多くの修学旅行生を受け入れる長崎市の長崎国際観光コンベンション協会。従来の被爆遺構巡りや被爆体験講話に加えて、平和についてのグループワークに取り組むプログラム「長崎SDGs平和ワークショップ」を2022年度から始めた。探究型学習の一環で、SDGsの観点から未来の平和に対する解決策と行動をグループでディスカッションして発表する。修学旅行後も学校での平和学習に生かせる内容となっており、学生たちの主体的・継続的な学びを促している。

「長崎SDGs平和ワークショップ」に参加した鹿児島県の錦江町立田代中の生徒たち。グループごとに考えたテーマとアクションプランを模造紙にまとめたものを発表した＝長崎市出島町、出島交流会館

SDGsの観点意識

「長崎SDGs平和ワークショップ」はグループワークや発表を取り入れた探究型学習で、新しい学習指導要領に定められた「主体的・対話的で深い学び」の実践として始まった。SDGsの2030年のゴールを意識しており、平和に対する具体的な行動を自ら考え、伝えることに主軸を置く。

同協会は被爆遺構の知識や講話をインプットするだけではなく、平和のために何ができるのかをアプトプットすることで、学習効果がさらに高まると考えている。

古賀典明事業部長は「長崎ではこれまで、さまざまな平和活動が行われてきたが、被爆者の高齢化や資料の劣化、さらに人口減少などが課題としてある。長崎を訪れた学生たちにも平和活動の継承・発信をしてもらうことが大きな力になる」と語る。

学生たちは学習シートを活用しながらオンラインで事前学習を実施。長崎の歴史や街、プログラムの概要を学んだ上で修学旅行に備える。当日は長崎原爆資料館見学や平和ガイドとの被爆遺構巡りで被爆の実相に触れてから、ワークショップのオリエンテーションとグループワークに臨む。

グループワークでは「どのように平和な世界をつくっていくのか」をテーマに自由に意見を交わし、その内容を模造紙にまとめて発表する。修学旅行生に被爆遺構を案内する「ながさき平和・歴史ガイド」や、長崎市内のホテルスタッフがファシリテーター役を務めて活発な議論を促す。

同協会によると、23年度は県内外から約600人の学生がプログラムに参加。本年度はそれを上回る見込みだという。

アウトプットが大事

5月22日は、鹿児島県肝属郡の錦江町立田代中の2年生12人が修学旅行の一環で長崎市を訪れた。平和関連の施設をガイドと共に巡った後、出島交流会館に移動してワークショップに取り組んだ。

二つのグループに分かれて、まずは平和な世界を実現するためのテーマをそれぞれ考えた。中学生にとって、普段向き合う機会が少ない平和という大きなテーマ。最初は苦労している様子だったが、ファシリテーター役を務めるガイドのサポートもあり「周りの友だちとけんかをしない」「命の尊さを知ってもらう」「譲り合いを大切にする」など、等身大の意見が活発に出てきた。

今回、初めて長崎を訪れたという原澤芽生さんは「ワークショップ前に原爆資料館で実際の資料を見たことで、具体的な意見が出てきた。鹿児島に帰って発表内容を整理して、他の生徒にも平和の大切さを伝えていきたい」と振り返った。

コロナ禍を経てオンライン学習が普及する中、同協会は「事前・事後の学習、そして現地で直接見聞きする体験の大切さが、より一層増していると見ている。事前に大まかな下調べをすることで当日の体験により深く入り込め、修学旅行後のさらなる学習や発表にもつなげられるからだ。

グループディスカッションについても、古賀事業部長は「正解を求めるのではなく、自分から意見を出すこと自体に価値がある」と意義を強調。「平和学習を通して、主体的に取り組む大切さを感じてほしい」と期待を込める。

新たな平和学習の形として、今後も子どもたちのアウトプットの機会を設けていく。

◎次回は6月24日掲載予定

「戦争・核兵器をなくそう」というテーマを掲げた原澤さんのグループ。実現するためのアイデアを自由に付箋に書いて共有しながら、全員で意見をまとめた＝出島交流会館

紙面で振り返る ながさき

look back

2016年（平成28年）12月30日付朝刊

高校生平和大使 ノーベル平和賞候補に

国連に核兵器廃絶を求める署名を毎年夏に届けている「高校生平和大使」がノーベル平和賞にノミネートされる見通しであることが29日、分かった。平和大使は1998年から、市民団体「高校生平和大使派遣委員会」（共同代表・平野伸人さんら2人）が国内外の高校生を対象に選出。若い世代に核廃絶や世界平和を国連で直接訴えてほしいと活動が始まった。